

・軍団制の解体 (8C末~9C初)

計帳・戸籍制度の崩壊

- ① [a.] 制の導入(792)
- 東北・九州を除いて軍団を廃止し、郡司の子弟を採用
- ② 俘囚 (従った蝦夷) の軍事利用
- ⇒徴兵制が解体され、傭兵的システムの導入が進んだ

- [b.]への権限集中(9半~)
- ↓ 徴税の強化

・群盗海賊の横行(9C半~)

受領と郡司・富豪層間の対立

関東では倭馬の党による強盗、各地で俘囚の反乱が続発

↓ 受領の軍事裁量権の強化(9c末)

・中下級貴族の地方での活躍

- 都…滝口の武者 (宇多天皇が設置) として宮中警護、上級貴族の「侍」として警護や都の警備
- 地方…国衙の治安維持や[c.]・追捕使として紛争を鎮圧

⇒彼らは「兵」と呼ばれ、中には地方に土着する者も出てくる

・ [d.]

- ① [e.]の乱 (939~940)
- 一族間の争いから国府を攻撃し反乱へと発展し、「新皇」と称したが、下野国押領使の[f.]・平貞盛らによって鎮圧された

- ② [f.]の乱 (939~941)
- 伊予掾であった純友が国府や大宰府を襲撃したが、追捕使の小野好古・[g.](清和源氏の祖)らが鎮圧

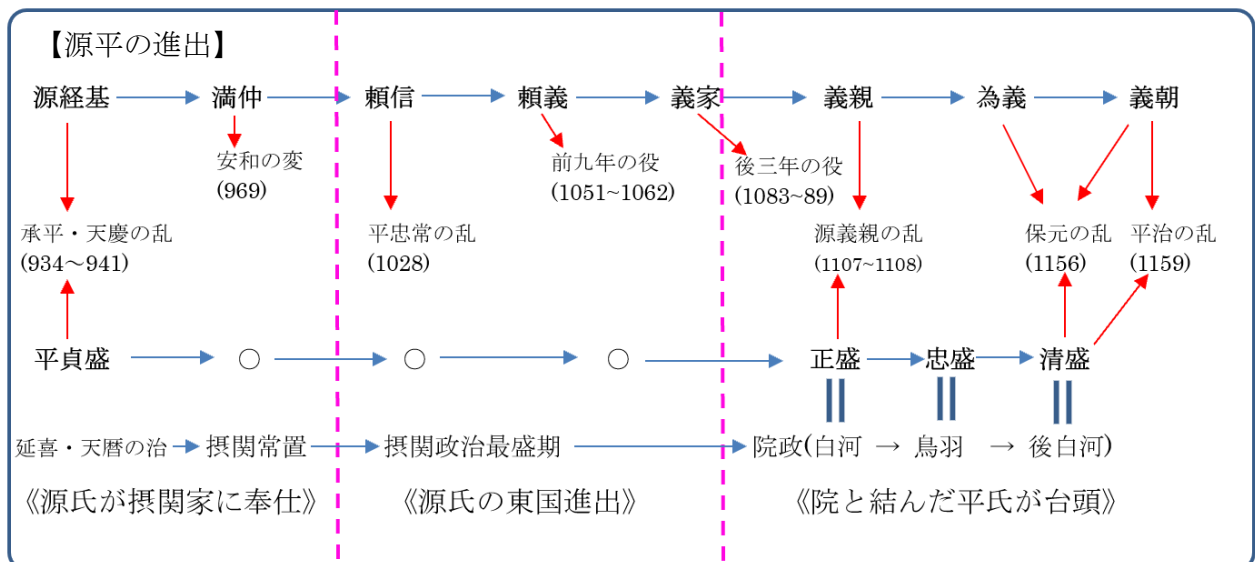
⇒乱鎮圧の功労者は「兵の家」として軍事貴族の地位を確立し、武士身分が成立

「中央軍事貴族」…清和源氏・桓武平氏の嫡流
 警護などを通じ摂関家や皇族と関係を築き、受領の地位を手に入っていた

「地方軍事貴族」…「兵の家」の子弟や子孫
 国衙に[i.]として仕えるとともに、国衙の承認を得て[j.]へと成長

大武士団(武家)の[h.]となる

在地領主化が進み、現地で中小武士団を組織



・軍団制の解体 (8C末~9C初)

計帳・戸籍制度の崩壊

- ① [a. 健児] 制の導入(792)
東北・九州を除いて軍団を廃止し、郡司の子弟を採用
- ② 俘囚 (従った蝦夷) の軍事利用
⇒徴兵制が解体され、傭兵的システムの導入が進んだ

[b. 受領] への権限集中(9半~)
↓
徴税の強化

・群盗海賊の横行(9C半~)

受領と郡司・富豪層間の対立

関東では倭馬の党による強盗、各地で俘囚の反乱が続発

↓ 受領の軍事裁量権の強化(9c末)

・中下級貴族の地方での活躍

- 都…滝口の武者 (宇多天皇が設置) として宮中警護、上級貴族の「侍」として警護や都の警備
 - 地方…国衙の治安維持や[c. 押領使]・追捕使として紛争を鎮圧
- ⇒彼らは「兵」と呼ばれ、中には地方に土着する者も出てくる

・[d. 承平・天慶の乱]

- ① [e. 平将門] の乱 (939~940)
一族間の争いから国府を攻撃し反乱へと発展し、「新皇」と称したが、下野国押領使の[f. 藤原秀郷]・平貞盛らによって鎮圧された
- ② [f. 藤原純友] の乱 (939~941)
伊予掾であった純友が国府や大宰府を襲撃したが、追捕使の小野好古・[g. 源経基] (清和源氏の祖) らが鎮圧
⇒乱鎮圧の功労者は「兵の家」として軍事貴族の地位を確立し、武士身分が成立

「中央軍事貴族」…清和源氏・桓武平氏の嫡流
警護などを通じ摂関家や皇族と関係を築き、受領の地位を手に入っていた

「地方軍事貴族」…「兵の家」の子弟や子孫
国衙に[i. 在庁官人]として仕えるとともに、国衙の承認を得て[j. 開発領主]へと成長

大武士団 (武家) の[h. 棟梁]となる

在地領主化が進み、現地で中小武士団を組織

